

◎今週の御言葉 「行先を知らないで」(創世記12章1～9節)
「信仰によってアブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。」(ヘブル人への手紙11章8節) 仲森文穂

◎創立35周年を祝い、心より主の御祝福をお祈り申し上げます。今日はアブラハムの旅立ちの所からお話させていただきます。

◎「あなたはあなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出てわたしが示す地へ行きなさい」という神様からの呼びかけで始まっています。もし皆さんが彼の立場ならどんな決断をされるでしょうか。アブラハムはこの呼びかけを信じ、旅立ったということです。不安もあったと思いますが、行先はその都度神様が示してくださる、自分はその中で最善を尽くそう、そうすれば神様が祝福してくださると彼は信じたのです。それ程の信仰的覚悟をもって彼は旅立ったのです。今から35年前、廣田守男牧師ご夫妻もこのアブラハムと同じ心境であられたのではないのでしょうか。祈りの中で開拓伝道の幻を与えられ、姫路の地を示され、霊的覚悟をもって赴任されたのではないのでしょうか。

◎このように祈りの中で行き先、自分の人生を導かれるということは、私たちにおいても大事だと思います。人生には様々な分かれ道があります。先行きに不安を覚えるとき「私に生きる場所をお与えください」と祈ることができることは、素晴らしいことです。野の花が置かれた場所で一生懸命花を咲かせるように、自分の置かれた場所で最善を尽くす、それが祝福される秘訣だと思います。また人生には挫折や困難があります。でもマイナスだけを数えないことが大事です。私の場合、牧師なるまでに7年間も回り道しました。でも、その体験が牧会の上で人々から相談を受ける時に、役立っていることを感じます。「大丈夫、人生は長い、多少の回り道ぐらいすぐ取り返せますよ」と迷いなく励ますことができるのです。そういうアドバイスが的を射た時には、神様に感謝、感謝です。

◎12章8節に「彼は主のため、そこに祭壇を築き、主の御名によって祈った」とあります。私には常に3つの祈りがあります。「自分が住むこの町を好きになれるように」、「この教会を愛することができますように」。そして「この教会に属する人々を愛し、心を込めて仕えることができますように」の3つです。おそらく廣田牧師ご夫妻もこうした祈りを常に祈り続けて来られたことと拝察いたします。またこの祈りはどなたにもお勧めできます。「家族を愛せますように、勤め先を愛せますように、出会う人々を愛し仕えることができますように」という風に、そういう祈りが喜びと感謝の源となると思います。高田敏子さんの「水のこころ」と題する詩があります。「水はつかめません、水はすくうのです、指をびったりつけて、そおと大切に。水はつかめません、水は包むのです。二つの手の中に、そおと大切に。水のこころも、人のこころも」。人の心は水のように。大事なものはそとと抱くこと、そとと包むことです。これは伝道の心でもある私は思っています。お一人お一人が水のこころをもって今後の伝道に励まれますように、主の御用のために置かれた場所で最善を尽くしていかれれますように、廣田守男牧師ご夫妻、教会員の皆様の今後の歩みが祝されますように、と心から祈りをささげたく思います。